

# I 令和6年度 事業計画書

## 1 内外経済の現況

新型コロナウイルス感染症の蔓延で失速傾向が続いた日本経済であるが、2023年における日本経済の実質GDP成長率は2.1%となり、前向きな変化を示した。円安傾向からの物価インフレ率も足元で高まり、企業による価格への転嫁も進行し、日本企業の稼ぐ力の向上や日本経済のデフレ脱却に期待する海外マネーの流入により、日経平均株価も1989年以来の高値となった。ただし、物価高に対する賃上げが進んでいないことから、個人消費の回復は見られていない。

一方、日本へのインバウンド需要は順調に回復し、2023年の訪日客の旅行消費額は5兆2,923億円に達し過去最高となった。訪日客数は2,506万人となり、コロナ禍前の2019年の8割まで回復し、2024年には3,300万人を超えると試算されている。

海外に目を向けるとロシア・ウクライナ戦争の長期化、米中対立など不確実性が高い状況が続き、エネルギーや原材料価格に大きく影響を与えた。2024年も、引き続き地政学的リスクは高まっていくことが予想されており、台湾総統選、ロシア大統領選、アメリカ大統領選など、日本経済の今後の動向に大きく影響を与えるイベントも相次いで実施される。

地政学的リスクが拡大する中で、2024年は日本経済にとってはデフレ経済からの脱却へ向けた金利政策、為替、賃金動向等、歴史的変化の起点になる年であり、目が離せない重要な年となる。

## 2 真珠業界の取り組み

我が国の養殖真珠は、香港を販売拠点として、香港ジュエリーショーを中心に販売活動が行われていることに今も変わりはない。海外バイヤーの日本産アコヤ真珠への関心は依然として高いものがあり、日本産アコヤ真珠の「品質の良さ」や「品質への信頼」が再認識されている。一方、アコヤガイ稚母貝の大量へい死問題の長期化、挿核貝の不足状況の発生は真珠の需給構造をアンバランスなものとしている。その結果、浜揚価格や卸売価格の単価は高騰しており、消費者の購買力が末端価格の上昇に追いつけるかが気になるところである。また、新型コロナウイルス感染症が収束に近づき、円安を背景としたインバウンドの増加、好調な米国経済を背景にした世界経済の回復が期待される。

こうした貿易環境下においては、これまで以上に「安心、安定、信頼」をモットーとして「品質の向上」「環境への配慮」「イメージアップにつながるPR」「イメージダウンを避ける施策」を生産者、流通業者一体となって取り組むことがますます重要になると思われ、これを将来の生産発展につなげてゆくことが大切であると考える。

日本真珠振興会としてはこれらの点を重視して、今後とも生産技術の向上のために、様々な支援を実施するとともに、国内市場に向けては消費者に正しく真珠を理解してもらえるようにするための努力、世界に向けては日本産真珠の積極的な広報活動をしていくことが必要と考えている。このことを目標に据えて、真珠振興法発布以降「真珠産業連携強化協議会」並びに「生産開発部会」、「販売・マーケティング部会」、「輸出拡大戦略部会」の3部会を設置して様々な取り組みに取り組んできたが、このうち「生産開発部会」において沖縄科学技術大学院大学と東京大学大学院とともに取り組んできた「アコヤガイ遺伝系統解析事業」の研究成果を養殖現場のニーズに対応していくために、令和

6年4月1日に遺伝子解析研究拠点として日本真珠振興会ミキモト分室を開設する。この研究拠点ではアコヤ稚母貝の大量つい死を解決すべく、各地のアコヤ母貝の遺伝子を解析することによって遺伝特性や近交弱性の実態を明らかにし、将来、病原体に強い系統の保存、種苗生産に取り組むこととしている。アコヤ稚母貝の安定生産は真珠流通量の増加と安定をもたらし、輸出量の増加に寄与する取り組みであることから、真珠業界全体で継続的に取り組む事業となる。

また、令和4年10月に農林水産省「農林水産物・食品輸出促進対策事業」における認定輸出促進団体の指定を受け、我が国の真珠産業が高い国際競争力を獲得・維持すべく様々な事業に尽力する所存である。認定輸出促進団体の指定を受けて以降取り組んでいるジャパンパールフェアは令和6年6月に4回目の開催となり、他の宝飾品を取り扱わない真珠単体の、B to Bに特化した、そしてオンライン商談にも対応したハイブリッド型商談会として認知度を高めており、来場バイヤー数、取引成約額ともに右肩上がりとなっていることがその証左となっている。ジャパンパールフェアは今年度も2回の開催を計画しており、継続的開催によって真珠流通の中核的役割を担う存在として育てていくことになる。

また、認定輸出促進団体として、強化しようとしている取り組みは、海外市場の特性とサプライチェーンの実態を念頭に置いたプロモーション活動である。現在のところ、海外の宝飾展で販売した材料がその後どのような評価の下、どのようなルートで最終消費者の手元に行きついているかについては十分わかっていないのが現状であり、また海外の真珠流通業界のニーズに関する情報も少なく、サプライチェーンの実態も不明である。日本真珠に品質を海外に発信していくためにはこれらの点を十分把握してからことに当たる必要がある。さらに、昨今、中国の真珠取引に係る取り組みが強まってきており、我が国としても何らかの対処方針をもって取り組む必要がある。

そこで、令和6年度には真珠振興会内に専門の委員会を設置し、真珠産業連携強化協議会（販売マーケティング部会）との連携のもと、海外プロモーション戦略を構築し、様々な広告宣伝活動が有機的に実施できる環境を整備するとともに、国内外の真珠取引に係るビジョンについて検討を開始する。

### 3 重点目標

上記1及び2に述べた情勢の下、我が国の真珠産業の維持・発展を目指して、本年度の重点目標を以下のとおり定め、事業活動を実施するものとする。

#### (1) 実施事業等会計

##### ① 市場開拓及び需要拡大等支援事業

###### ア 展示会等への出展による市場開拓・需要拡大事業

国内の宝飾展において、パネルの展示やDVDの放映による日本産アコヤ真珠のPR、真珠検定の説明相談会、高品質日本産アコヤ真珠の展示等を行う。また、香港等海外で開催される宝飾展においても真珠のすばらしさをPRし、中国人バイヤー等外国人の人々に対し、日本の真珠への理解を深める。また、審議の上、団体等が実施する宝飾展の出展を支援する。

#### イ 地域活性化事業

各地区で行われる真珠に関するイベント等の協賛やPR活動への支援を審議の上、行う。

#### ② 品質向上及び供給安定化等支援事業

##### ア 品質向上事業

###### ・ 品評会関連

全国真珠養殖漁業協同組合連合会と共同で、全国真珠品評会、全国花珠真珠品評会を開催する。また、各地域で行われる品評会についても審議の上、支援する。

###### ・ 養殖技術向上関連

変動の激しい自然環境の中で生産するアコヤ真珠の品質向上を図るために、審議の上、各団体等の事業に支援する。

###### ・ 新技術・新基準関連

各団体等の新技術に対する取組に、審議の上、支援する。

また、真珠の生産が国際的に広がる中で発生する各種の問題に対処するため、必要に応じて国際会議等にも専門家を派遣する。

#### (2) その他会計

##### ① 真珠検定事業

曖昧だった真珠についての価値基準や諸説を整理し、真珠の美しさをより多くの人々に伝えることを目的として、本年度も真珠検定事業を実施する。①有資格者主体のプロモーション全国展開②販売員の資格取得者の増加③一般消費者への真珠興味喚起に取り組み、さらにはB to Cオンラインパールフェアの実施や在日中国人向け中国語版真珠検定講座の開始にも取り組む。

##### ② アコヤガイ母貝の遺伝系統解析事業

遺伝的多様性尺度に依拠した稚貝生存率予測モデルを構築するために、これまでの研究において令和5年度までに行ってきた人工採苗貝の系統（3機関から提供を受けた8系統、83個体）の親貝のゲノム解析を行い、ヘテロ接合度やROHなど、さまざまな遺伝的多様性指標を算出する。また、人工採苗で得られた稚貝の生存率を追跡調査する。

親貝の遺伝的多様性指標と稚貝の生存率の相関を解析することで、遺伝的多様性から生存率を予測するモデルを構築する。

##### ③ 普及啓発事業

日本の特産品である真珠の持つ多面的な価値を広く普及・啓発するために、一般消費者からの質問、相談に対応するとともに、雑誌の有する普及啓発効果を再認識して、特別企画の掲載や新聞等のメディアによる広報宣伝、ホームページの活用、マーケティング事業、環境配慮に関する取り組み等幅広く実施する。

また、一般社団法人日本ジュエリー協会との間で設置している「真珠連絡会」を継続させ、連携して市場調査、販売促進、教育・育成、消費者対策等を進める。

#### ④ 真珠産業海外展開強化事業の推進

この事業は、真珠振興法の成立を受けて、平成29年度に国の新規事業として予算化された「真珠養殖業等連携強化・成長展開事業」、平成31年度・令和元年度から開始された「日本真珠国際競争力強化推進事業」に継いで、令和4年度から開始される後継事業である。そこでは、前事業が推進してきた真珠の生産から市場・流通・販売に至る各層が連携を強化する理念を継承する。

また、引き続き「真珠産業連携強化協議会」、専門部会として「生産開発部会」、「販売・マーケティング部会」、「輸出拡大戦略部会」を設置して、前事業において立案した行動計画に則り、真珠産業の振興を図っていくものとする。また、行動計画検討に必要な資料収集・分析、データベース化等を行うとともに、真珠養殖業等の次世代を担う人材を認定し、その活動に要する経費を助成していく事業を引き続き実施していく。事業の実施にあたっては、国の定額予算に自己負担を加算することにより、引き続き我が国真珠産業の国際競争力の強化を図るものとし、高い優先度をもって取り組む。また、今年度から、アコヤガイ母貝の安定生産と高品質母貝の作出をめざす研究開発拠点を設置し、「生産開発部会」に「遺伝子解析小委員会」を置き養殖現場のニーズに合致した研究開発を強力に推し進めていく。

#### ⑤ 農林水産物・食品輸出促進対策事業の推進

この事業は、農林水産省が令和10年度に農林水産物・食品の輸出額を4兆円に増やすべく取り組むものであり、真珠は重点24品目に指定された。また、令和4年10月に認定輸出促進団体に指定され、これまで以上に輸出活動を強化すべく取り組むことになった。このことを受け、真珠振興会では真珠産業連携強化協議会の中に設置している「輸出拡大戦略部会」の機能を強化することで取り組んでいくこととしている。

令和6年度は、事業として「重点国における真珠サプライチェーンの把握とマーケット解析業務」、「第4回ジャパンパールフェアの開催(6/10～12)」「第5回ジャパンパールフェアの開催（11月中旬予定）」「日本産アコヤ真珠の品質基準及び持続可能性に関する国内外でのPR事業の実施」、「生残率が高く品質の良い真珠を作るアコヤ母貝養殖の実証試験」、「中国バイヤー等を対象としたハイブリッド型国際展示会の開催」、「イタリア・ピアチェンツァ国際宝飾展でのプロモーション事業」など7事業を実施し日本のアコヤ真珠の国際競争力向上、輸出増大に寄与する。

### (3) 法人会計

総会及び理事会において、振興会の活動について活発な審議・検討を行い、振興会の重要な事項の決定を行うとともに、振興会の事業と活動の全般にわたり、積極的な対応を行うための各種振興対策を推進するために「真珠振興議員連盟」との連携強化を図る。

会員相互の意思疎通を図り、定款の目的に沿って真珠業界全般のために振興会の運営と事業活動の円滑な推進を図る。